

平成30年度 第2回 理事会会議録

日時 平成30年10月24日(水)13時30分～14時10分

場所 シーサイドホテル舞子ビラ神戸

議長

理事長 由岐 透

- 1 理事会成立 出席 13県、委任状 8県 合計 21県により理事会は成立。
- 2 議事録書名人 秋田県 長坂 宏次理事、大分県 上菌 哲郎理事
- 3 ※南波孝子事務局退職挨拶

審議事項(報告事項を含む)

①第14回全国大会 in ひょうごについて

- ・講師の二人は今までと少し違い大変だったと思う。残念だったのは、専門官の話は既に4月1日から実行されていることで、これから家族・利用者がどうなっていくかの話の方がよかった。事前に話の内容要望伝えていただきたい。
- ・全員参加型討論会は小賀・宗澤両先生の話はよく理解できた。意見交換の話も時間が取れたので良かった。
- ・全員参加型討論会の仕方は限界がある、皆さんの意見を聞くため、分科会形式などテーマを絞ってしたほうがいいのか。
- ・大会のあり方について、旧知を温める懇親会的なことをするのか、各県に示唆となる研究会をするのかを検討する時期ではないか。
- ・全国大会では研究会をすることには無理がある。開くことに意義がある。
- ・議員らと呼ばなかったことは何故かと感じた。
- ・会場費から分科会形式は取れない。力のない県自体から動員できること、こういう団体があって活動していることを知らせることが必要。

②平成31年度 第15回全国大会宮城大会について…宮城 大野氏から報告。

日時 2019年10月7日(月)～8日(火)

場所 メルパーク仙台

- 会場などは県連が手配する。内容については常任委員会にお願いしたい。
 - 資料等の製本会社はこちらで予定している。
 - 協賛金は努力する。サポート協会の協力も頂くので案内スペースをいただきたい。
 - 交流会は今回同様。アトラクション地元の方に依頼している。
 - 今回、皆さんが出来る限りゆったり過ごしていただくため、二次会会場をセッティングしたい。
 - 内容について、開会式後お礼の意味から震災復興報告の時間を取りたい。
- ※隣接県への組織拡大を図っていただきたい。

- ・《提案意見》大会終了後の理事会を見直していただきたい。(評決を今日はしない)

③平成 30 年度事業上半期活動報告・下半期活動見直し

・新しい形の支援施設のあり方に関する提言パートⅡ、本にまとめ一冊 1500 円、一支部 200 冊全施連で 5000 冊販売する。カンパは特別会計でその差額が出た時その差額を引いて行うのか。県連によって開きの違いが出る。5000 冊と書いてあるが店頭で売るのは何冊あるか。

・前回理事会ではこの項目は削除されたのではないか？

※まだどれだけの部数にするかの段階ではない。この数値は目安で、各県の実情に応じて決めることとなっていた。

・部数は理事会か常任委員会どちらで決めますか？

＜部数等は 3 月理事会に諮っていく＞

④PT(執筆者)会議について

次回：平成 30 年 11 月 11 日(日)～12 日(月)

場所：神戸市立総合福祉センター

主題：提言Ⅱ全章レジュメ内容確認と調整

※各章内容について、大会資料も使い報告。

※問題点…“地域共生ホーム”名称

厚労省に先取りされ、昨夜二人の先生に“地域共生社会”と混同する危惧があることを申し上げた。ノーマライゼーションも厚労省とわれわれの意味とちがっている。この提言の「はじめに」で、こういう意味ですと書いても駄目ですかといわれた。また、一方地域共生社会が浸透した時に混乱が起きるのではないかとの意見もある。

※長い文脈の中でうたっている言葉が“地域共生ホーム”に続いてきた。名称を変えると文脈がぎくしゃくする。次の執筆者会議で皆さんの意見を含めて検討したい。自分も忌み嫌っているが地域という言葉、共生も本来の意味と違ってぐちゃぐちゃになった、忌み嫌う言葉が二つ続く思いはある。

＜名称は次回執筆者会議で検討する＞

⑤ 要望書・要求書に対する全施連の取組み・進め方について

「我が事・丸ごと」地域共生社会についての全施連の意思表示について

※厚労省は戦後 3 番目のパラダイムの転換としている、幹部研修会として伊藤周平教授(鹿児島大学)を招いて行った。公的な意思表示はできていない。

＜要望書を書くのは正副理事長に一任。厚労省にいくときは常任委員も加える。意見書の要望は理事からも提議する。国会対応は正副会長一任＞

⑥第 3 回理事会について

日時 平成 31 年 3 月 12 (火) 13 (水) 場所 新大阪ガーデンパレスホテル

会議・懇親会・宿泊プラン 18,000 円 会議・懇親会 7,500 円

会議のみ 1,500 円 (予定)

福田顧問意見…全施連について

・全施連理念は今でよい。次には作戦が必要。一例として、会員を増やす。理念に違いがあっても拡がりを持たせるには作戦がいる。自分のところの施設長・施設協会をどう巻き込んでいくのか、親の高齢化も考えた時、連携を考えることが必要。